

3 サケ年齢組成と体サイズ

独立行政法人水産総合研究センター  
北海道区水産研究所 さけます資源部

- ・ 北海道では前年より 5 年魚が多く 4 年魚が減少、3 年魚は 1990 年以降で最も少ない
- ・ 本州太平洋では 5 年魚が前年を上回るが、1990 年代以降では全ての年齢 (2~6 年魚) で 1~2 番目の低水準
- ・ 本州日本海では、4~5 年魚がともに前年並み、3 年魚は前年を上回る
- ・ 北海道および本州の太平洋側では、2009~2006 年級 (今年の 3~6 年魚) が、いずれも 1992 年級以降で 1~3 番目の低水準
- ・ 北海道のサケ 4 年魚の平均尾叉長は平成以降で最も小さい水準 (1994 年と同程度)

・ サケの年齢組成

(全国)

全国の主要な河川で調べたサケの年齢査定結果 (途中経過) をもとに、1 月末時点の年齢別来遊数を推定すると、4 年魚 (2008 年級) は対前年同期比 83.8%、5 年魚 (2007 年級) は対前年同期比 158.6%であり、来遊の主群を構成する 4 年魚で前年を下回り、5 年魚で前年を上回っています (図 1)。また、1990 年以降でみると 4 年魚 (2008 年級) は過去平均\*1の同期比 62.6%、3 年魚 (2009 年級) は同 45.3%、2 年魚 (2010 年級) は同 6.2%であり、過去 1~2 番目に少ない来遊数となっています。

\*1: 過去平均とは、平成 2 (1990) ~平成 23 (2011) 年の平均値

サケ年齢別来遊数の推移 (全国)

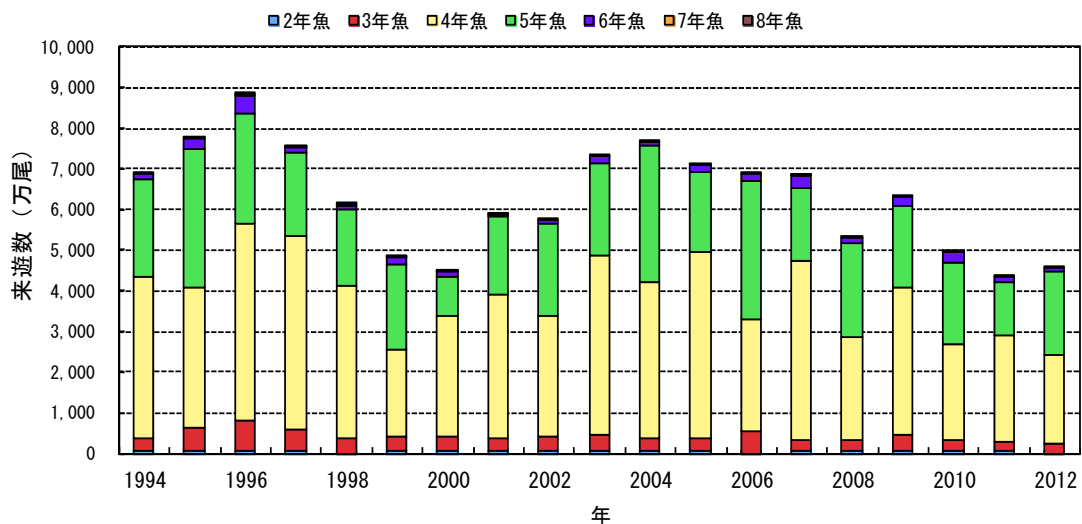


図 1. 1 月末時点のサケ年齢別来遊数 (全国)

(北海道：第6報と同じ内容)

今年の年齢組成をみると、主群である4年魚と5年魚が来遊数のそれぞれ47.9%および47.3%を占めており、両者の来遊数がほぼ同じになりました(図2)。5年魚(2007年級)は対前年比158.8%、4年魚(2008年級)は同81.2%であり、4年魚が前年を下回る状況でした(図2)。一方、3年魚(2009年級)は対前年比73.0%であり、3年魚としては1990年以降で最も少ない来遊数でした。

年級ごとの来遊数をみると、今年の4~6年魚である2008~2006年級は、これまでに回帰した年齢までの来遊数と比較した場合、いずれも1992年級以降で2~6番目に来遊数の少ない年級に相当しました(図3)。この傾向は太平洋側(根室~えりも以西海区)で特に顕著であり、今年の4年魚である2008年級と6年魚である2006年級は、それぞれ1992年級以降で最も少ない来遊数を記録しました(図4)。それとは対照的に、日本海側(オホーツク海区及び日本海区)の2006~2008年級は、2007年級で過去(1992年級以降)2番目に高い水準であり、2006および2008年級も過去(1992年級以降)の平均的な来遊数と同等もしくはそれを上回る水準でした(図5)。しかしながら、今年の3年魚である2009年級は、太平洋側および日本海側ともに、これまでのところ過去2番目に少ない来遊状況となっています(図4および5)。

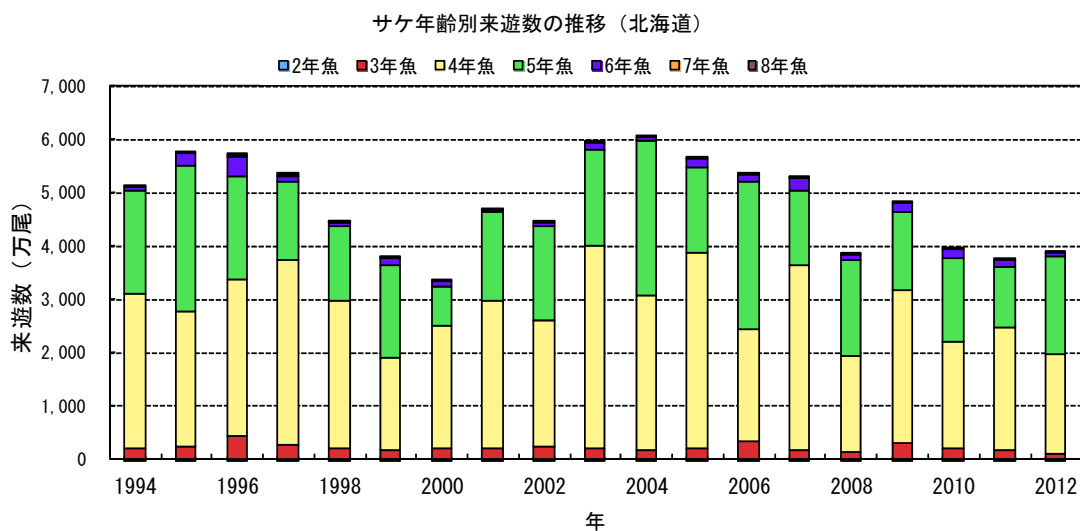


図2. 1月末時点のサケ年齢別来遊数(北海道)

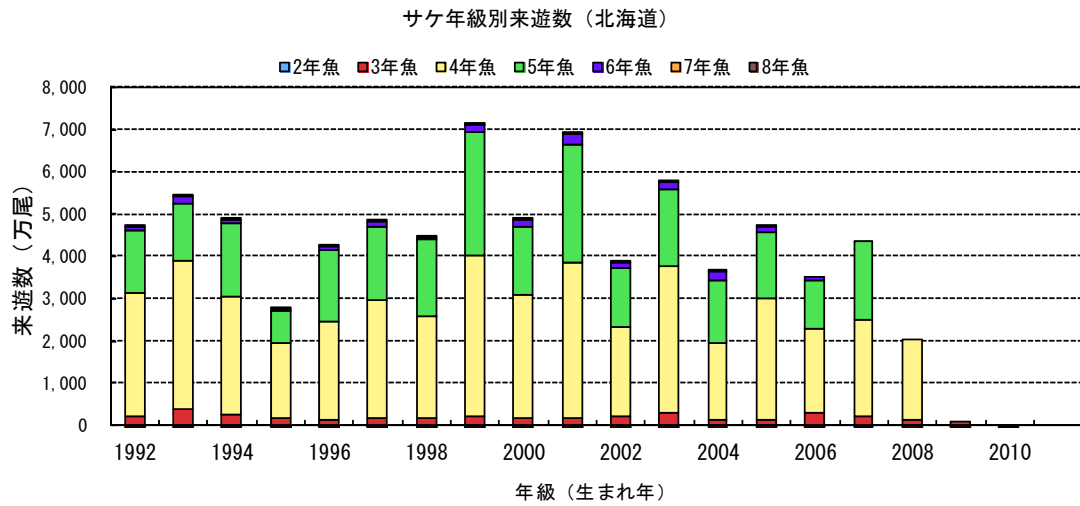


図 3. 1 月末時点のサケ年級（生まれ年）別来遊数（北海道）

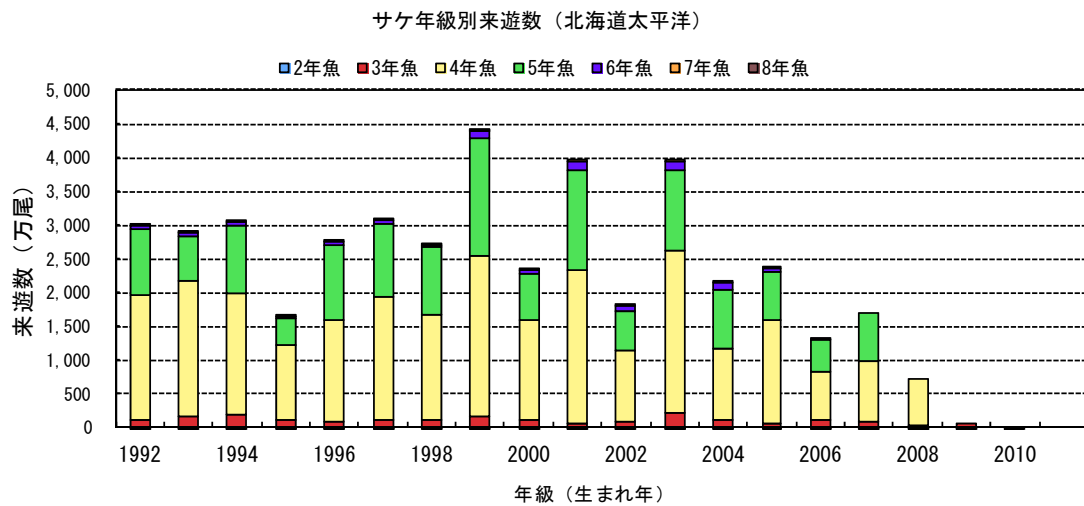


図 4. 1 月末時点のサケ年級（生まれ年）別来遊数（北海道太平洋）

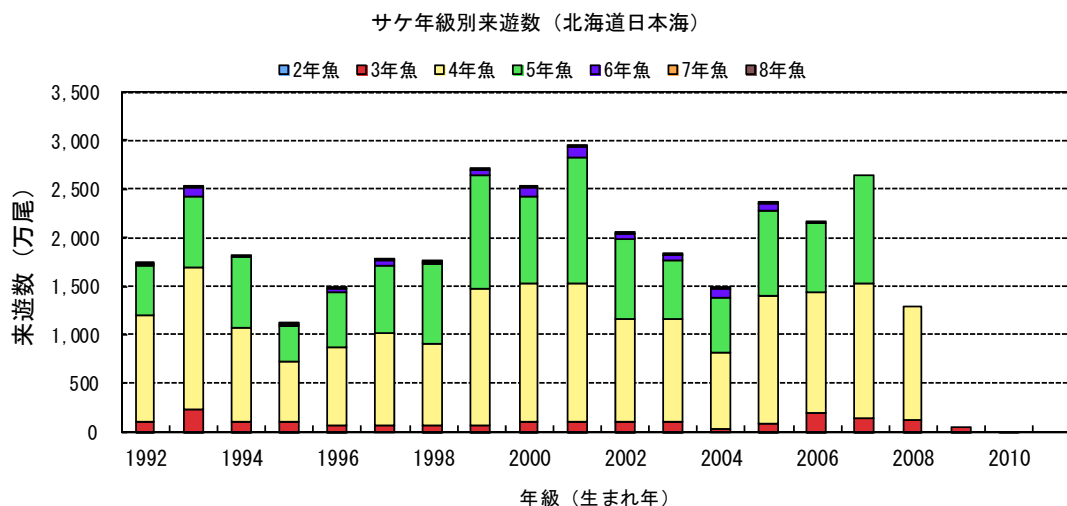


図 5. 1 月末時点のサケ年級（生まれ年）別来遊数（北海道日本海）

（本州）

本州太平洋側では、4年魚（2008年級）が対前年同期比103.5%、5年魚（2007年級）が同161.5%であり、5年魚で前年を上回る来遊数となっています（図6）。一方、3年魚（2009年級）は対前年同期比75.2%、例年ならば毎年出現している2年魚（2010年級）が今年は全く見られないなど、若齢魚の来遊状況が低調です。本州日本海側では、4年魚（2008年級）が対前年同期比97.2%、5年魚（2007年級）が同109.2%とそれぞれ前年並み、3年魚（2009年級）が同149.1%と前年を上回っています。前報では概況作成時点で入手可能な年齢組成に基づき、3年魚が4年魚よりも多いことを報告しましたが、最終的には、今年度の総来遊数に占める3年魚の割合は25.6%、4年魚の割合は53.7%と推定され、例年どおり4年魚主体の年齢組成になっています（図7）。

年級ごとの来遊数をみると、今年の3～6年魚である2009～2006年級は、これまでに回帰した年齢までの来遊数と比較した場合、太平洋側では1992年級以降でいずれも1～2番目に少ない来遊数に相当します（図8）。日本海側でも、2008～2006年級は過去（1992年級以降）の平均的な来遊数を下回る状況ですが、3年魚である2009年級は過去の平均的な来遊数の128.4%と多くなっています（図9）。

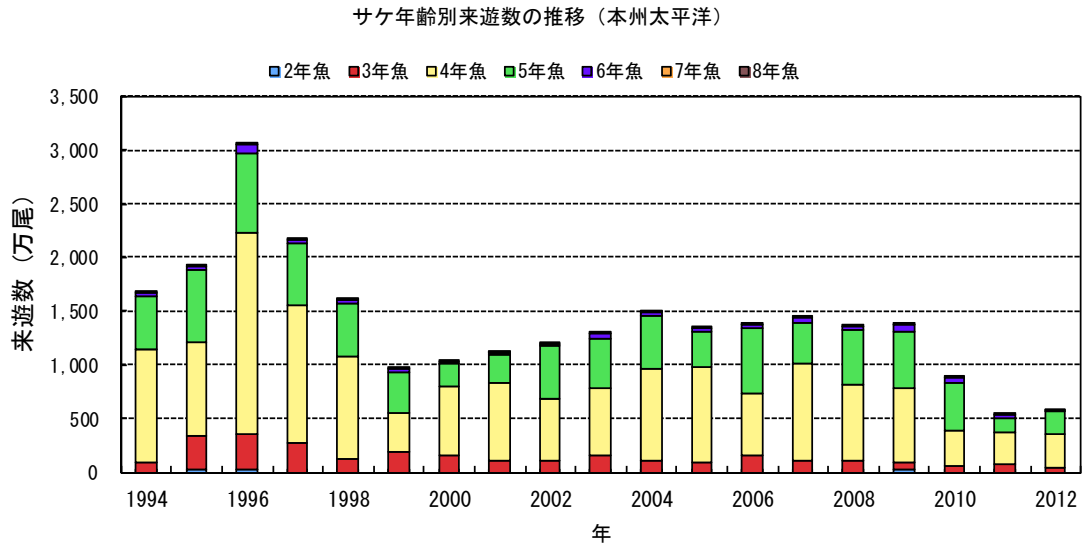


図 6. 1 月末時点のサケ年齢別来遊数（本州太平洋）

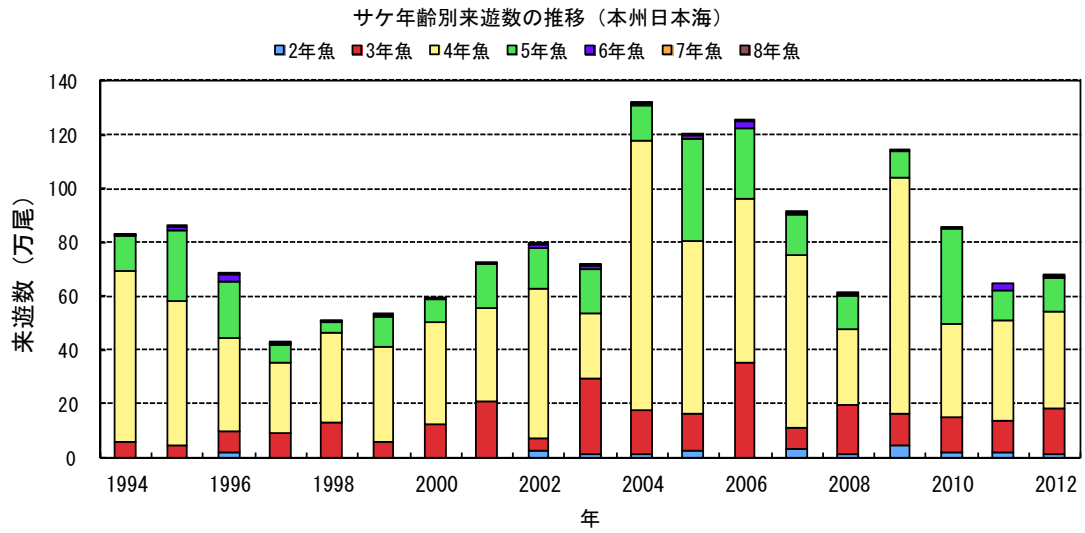


図 7. 1 月末時点のサケ年齢別来遊数（本州日本海）

サケ年級別来遊数（本州太平洋）

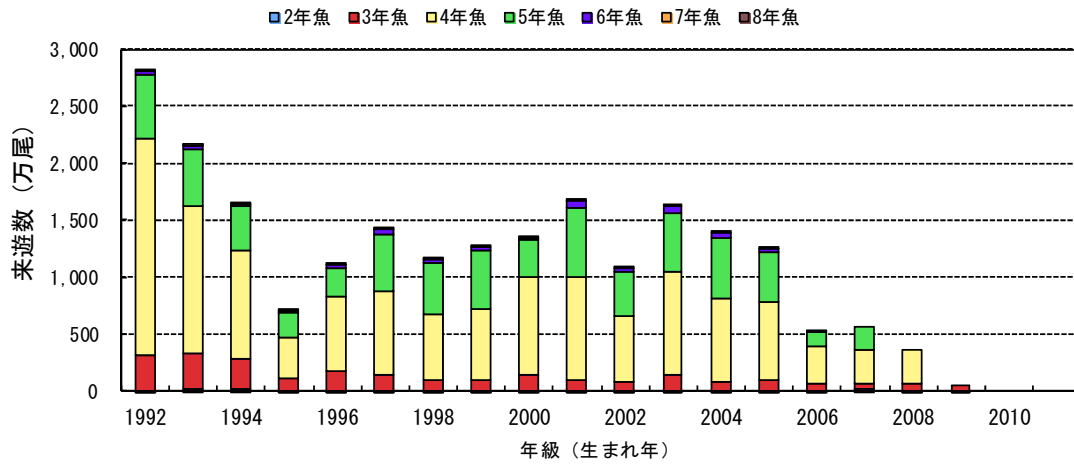


図 8. 1 月末時点のサケ年級（生まれ年）別来遊数（本州太平洋）

サケ年級別来遊数（本州日本海）

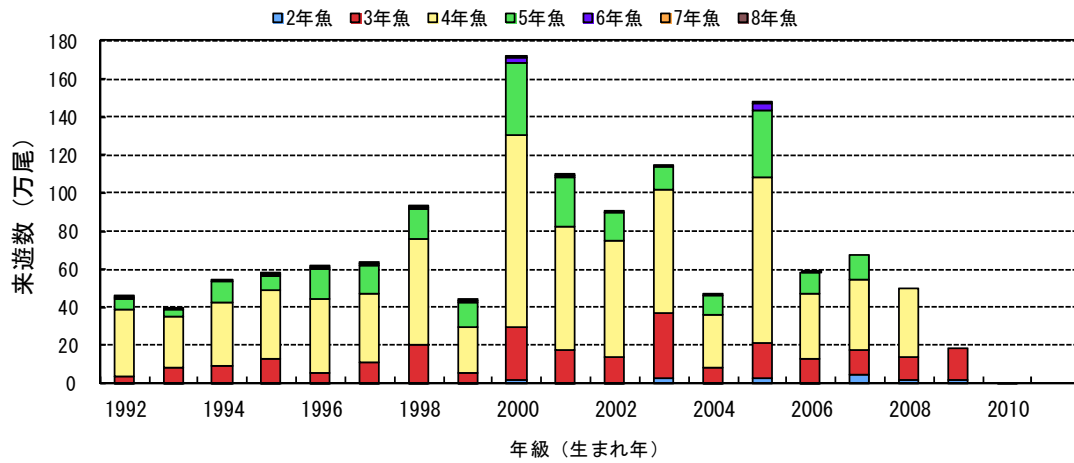


図 9. 1 月末時点のサケ年級（生まれ年）別来遊数（本州日本海）

・サケの体サイズ

本州における1月31日までのサケ1尾当たりの平均重量（サケ漁獲数と漁獲重量から算出）は2.78kgであり、これは対前年同期比92.0%と昨年より小さくなっています。

北海道の平均重量は3.10kgであり、これは対前年比92.5%と昨年より小さくなりました。また、平成元(1989)年～平成23(2011)年の平均重量を比較すると、小型化が顕著だった1990年代前半よりも若干小さくなっています（図10）。

北海道の主要河川で測定された4年魚の平均尾又長は、いずれの河川とも2010年以降小さくなっており、2012年には、多くの河川で平成以降で最も小さかった1994年並みの大きさとなっています（図11）。

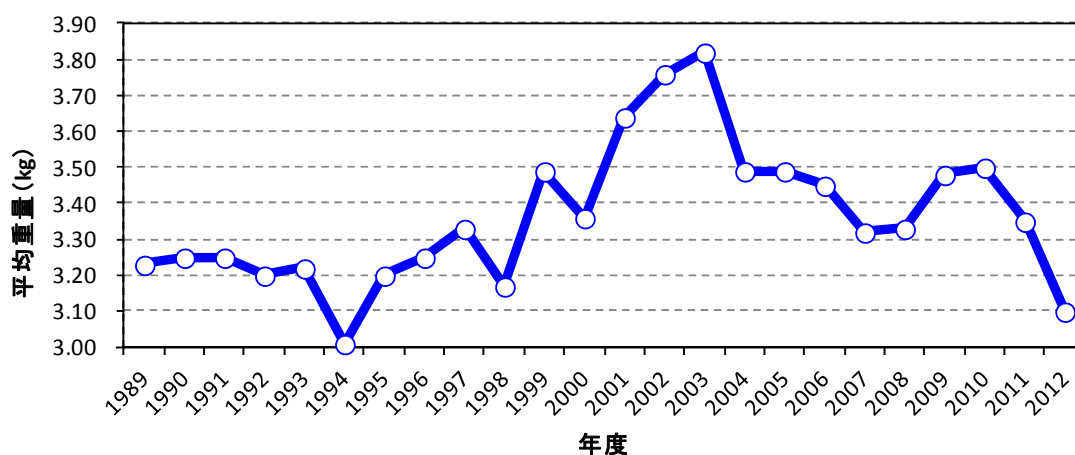


図10. サケ平均重量（北海道）

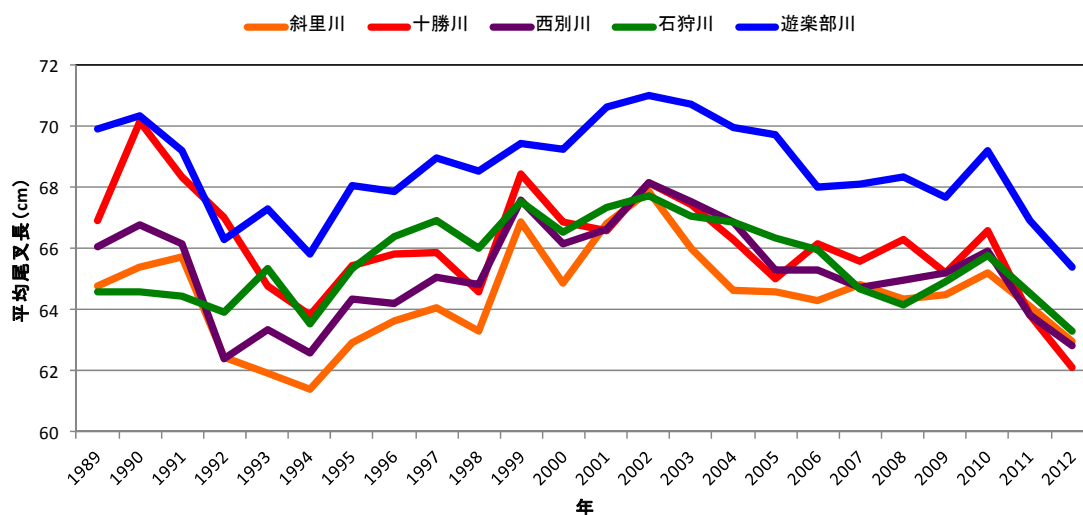


図11. 北海道の主要河川におけるサケ4年魚（雌雄込み）の平均尾又長